

1. 出題傾向

- ・国語の出題分野は、大きく『言語事項』（35%）と『読解』（65%）とに分かれます。
- ・『言語事項』では、漢字・語句に関する読み書きを中心とした問題のほか、文や言葉の意味・用法等に関する問題を、様々な形式で出題します。
- ・『読解』は、論理的文章（5000字前後）を1つ出題します。設問の内容としては、文章の展開（論理）や要点・要旨の理解を測る問題等を出題します。また、問題形式・解答形式は多様で、接続語や指示語、空欄補充や抜き出しのほか、記述問題もあります。

2. 問題構成

- ・国語の試験は、50分間で100点満点です。
- ・『言語事項』の配分は計35点分で、漢字がおよそ10題、語句の意味・用法等がおよそ20題です。
- ・漢字は、原則として学習漢字の中からの出題で、単純な読み書きのほかに、類義語・対義語・四字熟語等の問題も出題します。

例) 次の熟語と同じ構成の熟語を、ア～オの漢字を使って二組作った時に、余る漢字を記号で答えなさい。

多少 [ア 有 イ 長 ウ 弱 エ 無 オ 強]

→ 答え イ

- ・文や言葉に関する問題では、文型や文の成分（主語・述語・修飾語等）、ことわざや慣用句、四字熟語、敬語の使い方等から出題します。

例) それぞれの [] に漢字を一文字入れると、慣用句を用いた文になります。
ア～オの [] の中で、共通の漢字が入るものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 君が言っていることは [] も葉もないうわさ話だよ。

イ 彼は [] を割ったような性格で、裏表のない人物だ。

ウ [] で鼻をくくったような冷たい態度をとられた。

エ 去年のことをまだ言うなんて、相当 [] に持っているな。

オ 十年ぶりの同窓会で、思い出話に [] をさかせた。

→ 答え ア・エ

例) 次の —— 線部は、文の成分の何に当たりますか。語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

先週の日曜日、①ぼくは伊藤君と駅で待ち合わせをして博物館へ行った。見学していると伊藤君が「②うわっ、すごいね!」と声を上げたので見てみると、③とても大きな化石だった。どうやら日本で展示されるのは初めてのようだ。半日かけてじっくり見学した。④そして帰りに図書館へ行って⑤二人でレポートをまとめた。

語群 [ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語 エ 接続語 オ 独立語]
→ 答え ①ア ②オ ③ウ ④エ ⑤ウ

- ・『読解』の配分は計65点分で、15題程度の小設問があります。
- ・長文読解の抜き出しで、誤字や脱字がある解答は不正解とします。また記述問題はいずれも配点が高く、部分点はあるものの点数の開きが生じ易い箇所ですので、適切な答え方が求められます。特に条件が付いている場合には、その通りでないと不正解となりますし、また上限のみ字数制限されている場合には指定文字数の8割以上で答えを作ることがポイントです。

例) □に入る表現を前後の文章から考えて7文字で答えなさい。

例) —— 線部に「このコミュニケーションには、数字が不可欠である」とありますが、なぜこのような条件が必要なのでしょう。文中の言葉を使って25文字以上35文字以内でまとめなさい。

※解答するときに、この場合だったら文末に「～(だ)から」「～ため」等を使用してまとめることがポイントです。

3. 解答分析

- ・漢字の読み書きでは力の差が出ました。特に漢字を正しく読めていない解答が多く見られました。
- ・辞書に関する問題（五十音順を答える問題）は、正しく答えられているものが少なかったです。五十音順を正しく理解しているだけではなく、問われている漢字を正しく読むことも必要となります。
- ・正しい言葉遣いを考える問題、ことわざ、文法に関する問題は、よくできていました。特に文法の文の成分について、しっかりと理解できていました。
- ・文章挿入や文章中からキーワードを見つける問題は、答えを見つけることはできていましたが、正しくぬき出すことができていない解答が多かったです。
- ・記述問題では、概ね指定された文字数でまとめられていましてはしたが、中には、指示された文字数にとどいていないものもありました。

- ・文末表現に間違いがあったり、主語が抜けていたり、減点対象となる解答も見られました。
- ・文章の内容をしっかりと読み取れているかどうかを試す選択問題は、正しく答えられているものが少なかったです。長い文章でしたが、しっかりと理解できるように内容を整理しながら読みましょう。
- ・読解問題の前半部分は丁寧に答えられていても、後半部分までとどいていない解答もありました。文章内容を理解できている分、時間配分も意識できると良いです。

4. 学習アドバイス

- ・漢字の復習は4年生以上の字を中心に、さらに書き取りでは「幼い」「厳か」等、送りかなを正しく付けて書けるようにしておくことが必要です。また、読みでは「清々しい」等中学以降での読みも一部、出題の範囲とします。
- ・四字熟語、慣用句、ことわざ等の意味が分かるだけでなく、普段の会話や文章で書くときにも使えるようにしておくことが大切です。
- ・語彙に関する問題に対応するためには、日頃から言葉に対して興味・関心を持ち、辞書で調べる習慣を身に付けながら、言語感覚を高めていくことが大切です。
- ・新聞に目を通すことも効果的です。
- ・長文読解については5000字前後の長文になりますので、論説文や随筆文等の文章を中心に速読する力を身に付け、大筋や論旨を理解する力を養っておくことが大切です。また文章の構成やキーワード等を意識して読めるようにしておきましょう。
- ・長文読解の設問については、難易度が異なります。基本的な問題（接続詞、指示語等）や内容理解に関する選択問題等では、しっかり得点できるようにしましょう。選択問題では「一つ選びなさい。」、「全て選びなさい。」、「当てはまらないものを選びなさい。」等のように問い方が異なります。しっかり問いを読んで解答できるようにしましょう。
- ・長文読解の記述問題では20文字から100文字前後でまとめる問題を数問出題します。配点も高いので、文字数、キーワード、文末表現、主述の関係等も気にかけてまとめられるように練習しておきましょう。